

たか とい  
高 樋 遺 跡

調査の概要

高樋遺跡は、豊田市東部の山間部、坂上町に所在し、矢作川の支流の巴川に注ぐ仁王川によって形成された南向きの斜面に立地している。仁王川の約1 km下流には、ほぼ同時期に調査された三斗目遺跡・三本松遺跡がある。今回の調査は、県道坂上・花沢線の拡幅工事にともなう事前調査として実施された。

道路にそった細長い調査区の東端は水田を開くために削平され、西端は現代の耕作土の直下が旧河道となっている。これらの部分を除いて、地表から約80cmの部分に黒灰色土層があり、この層から縄文土器や石器が約500点ほど出土した。土器は早期のものが中心であったが、ほとんどが小さな破片であり、器形の復元は困難である。またこの包含層からさらに80cm下の、仁王川の氾濫によって堆積したと思われる灰白色砂質土の上面から、早期の押型文土器が1個体出土している。

遺構は、調査区の西の旧河道に接する部分で、土坑がひとつ発見されたのみであった。この土坑の埋土の最下層からも早期の押型文土器と石鏃などが数点出土している。土坑の全形はわからず、性格も不明である。

遺物の出土状態や地形から、この遺跡は斜面からの崩落による遺物の二次散布地でないかと思われるが、調査区の南の仁王川に面した平坦な水田の部分に遺構が広がっている可能性も考えられる。

(余合昭彦)



調査区全景



石鏃出土状況